12月の道内景況

情報連絡員レポート

景況感は上昇基調も 依然として売上高、収益状況の悪化続く

-70.0

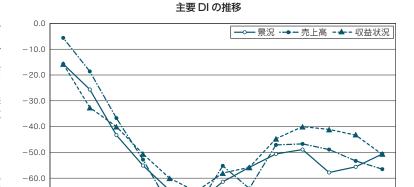
-80.0

概況

全業種の主要DIの推移では、「景況」は前月から引き続き若干改善した一方、「売上高」「収益状況」は10月から3ヶ月続落し、事業環境を取り巻く厳しい状況が窺える結果となった。

業種別に見た比較では、製造業で「資金繰り」を除く全項目が前月から悪化し、非製造業では「景況」「雇用人員」の2項目を除いて落ち込みが見られた。

12月の情報連絡員報告によると、コロナの感染再拡大による忘年会やイベント等の中止や年末商戦の不調が重なり、通常繁忙期の12月にもかかわらず、多くの業種で収益面等の不振が見受けられた。



景況天気図(前年同月比)

		全業種		製造業			非製造業		
	11月	12月	前月比	11月	12月	前月比	11月	12月	前月比
業界の景況	△55.6	△50.6	5.0 1	△57.6	△60.0	△2.4	△54.4	△45.5	8.9
売 上 高	△53.3	△56.5	△3.1	△60.6	△63.3	△2.7	△49.1	△52.7	△3.6
収益状況	△43.3	△51.8	△8.4	△48.5	△63.3	△14.8	△40.4	△45.5	△5.1
販売価格	<u>△</u> 6.7	△10.6	△3.9	△6.1	△13.3	△7.3 `\	△7.0	△9.1	△2.1
取引条件	△8.9	△11.8	△2.9	△9.1	△13.3	△4.2	<u>△</u> 8.8	△ 10.9	△2.1
資金繰り	△22.2	△22.4	△0.1	△30.3	△30.0	0.3 *	△17.5	△18.2	△0.6
雇用人員	△17.8	△20.0	△2.2	△9.1	△16.7	△7.6 ` \	△22.8	△21.8	1.0

(凡例) 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」) したという回答(構成比) から「減少」(または「悪化」) という回答(構成比) を差し引いた値(DI) をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

- ・観光客は激減したものの、巣ごもり需要で損失分はある程度カバーできてい (水産食料品/全道)
- ・年末は通常どこも忙しくなるものだが、今年は例年に比べ売上等が減少してお り、特に業務店やホテル、観光地向けで大幅減となった。量販店は平年並み、 通信販売が多少伸びている状況。 (めん類/全道)
- ・11 月単月の出荷量は味噌、醤油いずれも前年比減。特に醤油の落込みが大き い。両業界とも「家庭用は良いが、業務用が悪い」との認識で一致している。 (味噌・醤油/全道)
- ・12 月はコロナ感染再拡大を受けた忘年会・クリスマス会等の中止や年末商戦 (飲料/全道) の不調も重なり飲料水の売上は減少した。
- ・製材市況は、地域により差はあるが、カラマツ、エゾ・トドマツいずれも保合。原 木市況はカラマツ、エゾ・トドマツともに弱保合〜保合。カラマツ原木の在庫は潤 沢だが、一部でタイトになっている所も見受けられる。梱包材やパレットの受注が 少なく荷動きは非常に悪い。エゾ・トドマツ原木は製材工場の製品在庫調整が-部で進んでいる影響で上向いている状況にある。ツーバイ材用の製材受注が旺盛 で、桟木については少ないが動きが出始めている。紙原料は、紙需要の落ち込み により木材チップの需要が少なくなっており、木質バイオに向けられている模様。 背板チップは過剰になりつつある。木質バイオマス原料は動き出してきている。酪
- 農地域では、おが粉原料用の丸太の確保が見られる。 (一般製材/全道) ・年末に向けて受注量が再び減少傾向にあり、売上は前年比81%と低迷してい (一般製材/中川郡) る。
- ・12 月の生コン出荷量は前年同月比 100.9%となる約 227 千 m³

(窯業・土石製品製造業/全道・生コン)

・函館地域では、新幹線工事に伴い砂利の販売価格は高止まりしているものの、 収益増加には繋がっていない。地域での細骨材の確保が難しくなっており、安 定供給体制の構築に苦心している。北海道管理河川において河川法第25条に よる砂利採取が新たに始まり、原石確保の手段が広がった。

(窯業・土石製品製造業/全道・砂利)

- ・改修工事などをメインにしている事業者は、コロナの影響による工事の延期や 中止により売上に影響を受けているものと思われる。コロナ禍でこれから市場 が急激に冷え込んでいく可能性が高く、業界全体の懸案事項となっている。今 後は資材の高騰も予想され、どの企業も収益面で厳しくなってくると考えられ (窯業・土石製品製造業/全道・ガラス)
- ・操業の基盤は造船ブロック製作だが、今年度は更なる減少が計画されており、 過剰人員の発生により昨年以上の厳しい状況となることが予想される。

(金属製品/室蘭)

非製造業(卸・小売・商店街・サービス業)

- ・コロナによる外出控えに加え、降雪が遅れたことで紳士靴の売上が前年比大幅 に減少した。小売りの資金繰りが心配される状況。IT 関連以外の事務機器・什 器等はオフィスでの需要減のため業況が悪化した一方、スーパー・ドラッグス トア等での取扱商品は順調。その他商品は横ばいで推移した。感染対策をしな がらもコスト削減努力により収益的には前年並みとの回答が多いが、取扱商品 による格差が大きい。組合の展示場、貸会議室は11月のコロナ感染再拡大か らキャンセルが相次ぎ、例年の2割程度の利用率となっている。
 - (各種商品/札幌)
- ・12月の組合員買付総額は大幅に増加した。通常荷が動くと言われる12月だ が、今年は例年と異なり月半ばまで青果生鮮価格の安値傾向が顕著であり、そ の点を考慮しても予想以上の取引量となった。コロナ感染再拡大で外出を控え た消費者が自宅での消費量を増やしたことも大きな要因だが、各方面での忘年 会が中止になったことでホテル、飲食関係が仕入量を圧縮したため納品業者の 買付額が激減しており、一般消費者向けの販売高が大きく際立つ結果となっ (野菜・果実/全道)
- ・外出自粛の強まりを受けて再び観光関連の取引が大幅に縮小した。巣ごもり需 要はあるが、節約志向も根強く、例年より落ち着いた年末商戦になったことで 前年割れしたところが多い。観光関連の取引が多い企業は依然収益面でも厳し (菓子/全道) い状況が続いている。
- ・外出自粛の影響により全業種で売上が前年に比べ減少した。食糧品は、需要自 体は伸びているものの、プレミアム商品券の影響で当組合の取扱いは減少する 結果となった。キャッシングも同様に減少している。 (各種商品/旭川)
- · GoTo トラベル停止で一時的に観光客の動きが止まったが、都市部よりも感染者 数が少ないとの報道を受けて少しずつ観光客数が戻ってきているように感じる。 今年最後の特売では、年末準備のためか地元客が多数来場した一方、本州企業か らの歳暮の注文の減少や取り止めがあるとの報告もある。 (各種商品/小樽)
- ・歳末商戦に期待していたが予想ほど売上は伸びず、近年にない厳しい状況が続 いたとの声が多く聞かれた。マイナス要因として、コロナの影響による消費マ インドの低下が大きいと思われる。 (各種商品/釧路)
- ・巣ごもり需要の影響でネット通販事業の実績が少しずつ伸びてきている。
 - (各種商品/函館)
- ・飲食店では、本来繁忙期である12月も各団体の忘年会等の中止や5人以上の 会食の制限により予約が入らず、売上は激減している。小売店においても来店客 数の減少が激しく売上の確保が難しい状況が続いている。 (各種商品/日高郡)
- ・組合全体の前年比(販売額)は104.8%。食品・スーパー関連は前年比 105.0%、ホームセンター 101.1%、その他一般店は 107.0%と回復傾向にあ るものの、今後のコロナ対策の状況次第で厳しくなる業種も出てくるものと思 われる。 (各種商品/芦別)
- ・売上高は前年同期比 95.98%。来店客数は前年並みだが客単価の減少が影響し (野菜・果実/札幌)
- ・12月は、天候に恵まれた上、4週連続の売り出しも好調だったが、コロナの 影響で昨年より売上は減少した。 (鮮魚/釧路)
- ・12 月期は GoTo トラベル一時停止による観光・ホテル・飲食店の売上減少で 先が見えない状況。スーパー等量販店や単独店の売上は上昇傾向にある。外食 控えにより家庭での少人数の会食機会が多くなり、食生活の変化が生じてい (各種食料品/札幌)

- ・12 月の原油価格は、前月から引き続き上昇基調で推移し、1 バレル当たり 50 ドルを超える水準となった。札幌の市況をみると、原油コストの順調な転嫁は 見られるものの、安値市況が続く一部激戦地では地場中小零細企業の経営は厳 しくなっている。ガソリン販売も減販が続いており、危機感をあらわにする販 売業者も多い。景気の先行きは依然として不透明であり、ガソリンのさらなる 需要減が懸念される。 (燃料/全道)
- ・原油価格は8月以降小幅な増減で推移していたが、11月中旬から上昇基調と なり市況価格も 12 月中旬から値上げ改定となっている。売上高は、12 月に 入り例年になく低温が続き、降雪量も多かったため、暖房用燃料、車両用燃料 ともに量的には前年に比べ増加したが、市況価格が前年比で大幅に安くなって いることから金額的には前年並みとなった。 (燃料小売業/稚内)
- ・12月の卸値は値上げ推移となった。小売店販売価格は改定で推移し、収支状況も 従来と同じく量販店の攻勢で厳しい利益□銭に圧縮され、販売量は戻ってきてい るもののコロナの影響により前月同様収益は落としている。 (燃料小売業/旭川)
- ・コロナの感染再拡大で消費需要が拡大しなかったことに加え、家電メーカーの主 力商品が一部在庫切れを起こし売上の足を引っ張った。 (電気機械器具/全道)
- ・農機市場は、展示会・実演会・訪問販売等営業活動の制約、自粛の影響を受けて 全道的に低調に推移した。大手・中小ともにこの1年で培われた新たなノウハウ を活かした販売活動の実施に向けて取り組んでいる。 (農業用機械器具/全道)
- ・12 月は昨年と同水準で推移した。年明け以降の小売に期待をかけているとこ ろが多い。 (中古白動車/札幌)
- ・例年 12 月は降雪で除雪機の売上が上向く傾向にあるが、今年はさほど影響が 現れていない。 (自転車・自動車/全道)
- ・地元百貨店の11月売上高は前年同月比13%減の4億1,027万円。コロナに よるイベント休止や衣料の苦戦が影響した。12月共通駐車券の利用は前年同 月比72.0%、買物共通バス券は前年同月比74.4%に減少。コロナ感染拡大で 依然厳しい状況が続いている。 (帯広市・商店街/帯広)
- ・コロナの影響で歳末大売り出しも中止となり、景況がかつてなく悪化した。 (網走市・商店街/網走)
- ・GoTo トラベル一時停止に伴い、年末年始を中心とする宿泊予約キャンセルが 膨大な数になっている。予約取り消しとともに観光自粛ムードも強まり打撃は 大きい。 (旅館/音更)
- ・コロナ感染拡大により事業の自粛等を余儀なくされている。利用者の減少によ る売上減が目られる。 (公衆浴場/全道)
- ・道内中小IT企業の約半数が首都圏を中心とした大手システム会社等からのプ ログラム開発案件を受託している。令和2年度はコロナの影響で発注元の多く が業績低迷したことが IT 投資に影響し、3 月期決算は減収減益を見込む道内 中小IT企業が多い。令和3年度は景気が緩やかに回復してIT投資がコロナ禍 前以上に積極的になると予測する企業が多く、4月以降を見据えて既に新規の 受託開発案件の打診がきている状況だが、ギリギリの技術者数でやりくりをし ている現状のため、人材を即座に確保することが難しく、頭を悩ませる問題と なっている。解決策として、家庭に留まっている IT 系のシニア人材や女性の 非正規社員としての活用、副業を求めるギガウォーカーの利用を視野に入れて 採用を進める道内中小IT企業が出始めている。ただ、要求する品質に対して の出来栄えや納期だけでなく、情報流出のリスクなど責任の所在を明確化する セーフティネットの早期構築が必要となってきている。 (ソフトウェア/全道)

非製造業(建設・運輸業)

- 公共工事は入札物件もなくなり、来年度の予算がどの程度確保されるのか危惧 している状況。民間に関しては、若干動きはあるが地盤のしっかりした企業が 中心で、業界全体に仕事が広がりづらいように感じる。受注環境は価格面で厳 しい状況。電力系の工事は、昨年比で確実に減少しているが、現段階ではまだ ある程度の仕事量は確保できるものと推測している。コロナの影響で地域をま たいだ移動がしづらく、情報収集や営業活動などをいかに行うかが今後の課題 (電気工事/全道)
- ・多くの事業所で人手不足の状況が見られた。 (左官工事/全道)
- ・本格的な降雪期となり、市の除雪業務を請け負っている組合員は忙しい状況。 12 月後半からは水道凍結の解除依頼が数件あるようだ。 (管丁事/名寄)
- ・通常忙しくなる年末の物流も例年に比べ早々に落ち着いてしまった。
 - (一般貨物自動車運送/小樽)
- ・農産物の荷動きは、12月後半から活発になったものの、月全体では前年比で 減少した。価格下落やコロナ禍による外食産業の消費の落ち込みが要因と思わ れる。一般雑貨や日用品は一部の品目を除いて依然コロナの影響を受けてお り、荷動きは良くない。工業用品は全般的に不調である。例年 12 月は飲料関 係の荷動きが活発になるが、今年は忘年会・会食等の自粛が大きく影響した。
 - (一般貨物自動車運送/石狩)
- ・売上高は前年同月比 45.1%減少。乗務員数は前年同月比 13.4%減少。11 月 分チケット取扱高は前年同月比 17.9%減少。 (一般乗用旅客/旭川)